

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-81612

(43) 公開日 平成10年(1998) 3月31日

(51) Int.Cl.⁴

A 6 1 K 7/00

識別記号

庁内整理番号

F I

A 6 1 K 7/00

技術表示箇所

U
L

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平9-112839

(22) 出願日 平成9年(1997) 4月30日

(31) 優先権主張番号 特願平8-190746

(32) 優先日 平8(1996) 7月19日

(33) 優先権主張国 日本 (J P)

(71) 出願人 000000033

旭化成工業株式会社

大阪府大阪市北区堂島浜1丁目2番6号

(71) 出願人 596106238

昭和紙工株式会社

香川県三豊郡豊浜町大字和田甲237-1

(71) 出願人 596106249

株式会社本田洋行

愛媛県川之江市金生町下分928番地

(72) 発明者 溝口 隆久

宮崎県延岡市旭町6丁目4100番地 旭化成

工業株式会社内

(74) 代理人 弁理士 石田 敬 (外3名)

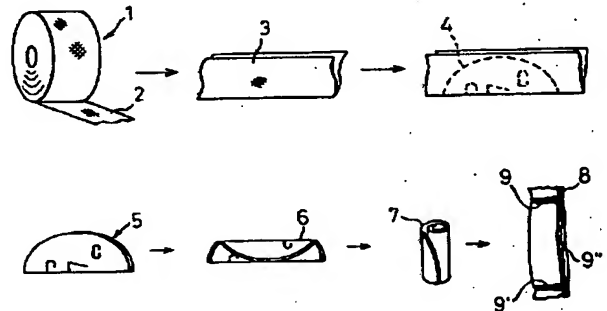
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 携帯用フェイスマスク・バック

(57) 【要約】

【課題】 手軽に携行でき何時でも、何処でも手軽にスキンケアができる携帯用フェイスマスク・バックの提供。

【解決手段】 展開すると人の顔面に適合する形に切られた液体保持性を有するシートのフェイスマスクであって、該フェイスマスクの展開形状片もしくは折り畳み片がスティック状状態に巻き上げられたものと、適当量のスキンケア液体がシール包装されたものを区分けして一体包装されてなるスティック形携帯用フェイスマスク・バック。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 展開すると人の顔面に適合する形に切られた液体保持性を有するシートのフェイスマスクであって、該フェイスマスクの展開形状片もしくは折り畳み片がスティック状体に巻き上げられたものと、適量のスキンケア液体がシール包装されたものを区分けして一体包装されてなるスティック形携帯用フェイスマスク・バック。

【請求項2】 フェイスマスクが乾燥状態でスティック状に巻き上げられている請求項1記載のスティック形携帯用フェイスマスク・バック。

【請求項3】 フェイスマスクにスキンケア液体が含浸されスティック状に巻き上げられている請求項1記載のスティック形携帯用フェイスマスク・バック。

【発明の詳細な説明】**【0001】**

【発明の属する技術分野】本発明は、誰でもが手軽に使い、持ち運びに邪魔にならずコンパクトで、且つ、いつでも、何処でもスキンケアが可能となる携帯用のフェイスマスク・バックに関する。

【0002】

【従来の技術】従来、フェイスマスクは、顔面に適合する形に打ち抜かれた布帛状物が10枚ほど重ねられ、乾燥状態で包装された物が供給されてきた。これらは旅行などの際には必要な数量を分けて別な包装をして持ち運ぶ必要があった。また、使用するときには化粧水やスキンケア薬剤を適量含浸させ、顔に張り付けるという方法を利用者に求めてきたため、含浸させるための容器や適切な量を測る容器なども必要であった。最近では、携帯用と称して、フェイスマスク布帛を固くプレスし、小さくして持ち運びに便利にしたものも知られているが、しかしこれも薬液を別に小分けして持ち運び、使用するときには含浸容器や計量具などを用意する必要がある製品でしかなく、結果として利便性に欠けるものであった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】本発明は、以下の課題が克服され手軽に携行出来、何時でも、何処でも手軽にスキンケアが出来るフェイスマスク・バックの提供を課題とするものである。

(1) できるだけコンパクトで、嵩張らない形態にすること

(2) 使うときには広げやすく、扱いやすいこと

(3) 薬液を添加する手間を無くすこと、あるいは適量の化粧水やスキンケア薬剤を容易に含浸させられることという課題を克服したフェイスマスク・バックを提供することを目的とする。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明者らは、上記目的を達成するために鋭意検討を重ね、液体保持性を有するシートから打ち抜かれるか、もしくは切り抜かれたフェ

イスマスクのシートそのままか、もしくは適当な幅になるように数回折り畳み、その長手方向に向かって巻き上げてスティック体としたものと、適量のスキンケア薬液をシール包装したものを一体包装した携帯用フェイスマスク・バックを得ること、またはそのスティック体に適量のスキンケア薬液を添加、飽充し、シール包装した携帯用フェイスマスク・バックを得ることにより前記課題を解決することを可能にするものである。

【0005】すなわち本発明の課題は、展開すると人の顔面に適合する形に切られた液体保持性を有するシートのフェイスマスクであって、該フェイスマスクの展開形状片もしくは折り畳み片がスティック状体に巻き上げられたものと、適量のスキンケア液体がシール包装されたものを区分けして一体包装されてなるスティック形携帯用フェイスマスク・バック、または該スティック状体がスキンケア液体で飽充され、シール包装されてなるスティック形携帯用フェイスマスク・バックによって達成することができる。

【0006】本発明のシートは実質上乾燥した状態で用いられることが大切であるが、水分や液体状物質を全く含有しないことが必要なわけではなく、シート重量の約80重量%～150重量%の液を保持できる性質を有していればよい。製造工程で自然に吸湿された水分や添加物等が含まれていても支障はない。例えばセルロース繊維からなる布帛では通常5重量%から15重量%程度の水分を含んでいる。

【0007】本発明の携帯用フェイスマスク・バックは、スティック状に巻いてあるため、嵩張らず、小さなバッグやコスメティックファンデーションケースに必要な数だけを入れて持ち歩くことができる。また、実質上乾燥した状態でシール包装されてなるスティック形携帯用フェイスマスク・バックは、包装袋を液充填用の容器として使用できるため好きな化粧水を好きな量だけ含浸させることができる。また、適量のスキンケア薬液を添加、飽充し、シール包装した携帯用フェイスマスク・バックは、スキンケアに必要な材料が1バックになっており、シール包装の包装を破りスティック状体になっている布帛を広げて顔に当てるだけで、スキンケアができる優れたものである。

【0008】フェイスマスク用のシート材料としては、紙、不織布などが適当であるが、薄くスライスされたスポンジシートや膨潤性のあるフィルムであることもできる。シート材料は、人の顔に沿う柔らかさとスキンケアのための液体を保持する性質を備えた布帛もしくはシート材料であればよく、シート重量の約80%～150%の液をまんべんなく保持できる性質があればよい。一般的には、保液性の面からいうと、これらの布帛状物にはセルロース繊維が含まれていることが望ましい。これは、スキンケア薬剤がローションや乳液であり、保液のため及びフェイスマスクの柔軟性のためセルロース繊維

の存在が好ましい結果を与えるからである。ここでいうセルロース繊維とは、いわゆる広義のセルロースを意味し、パルプ、綿花等の天然セルロース繊維はもちろん、レーヨン、キュブラ、アセテート、リヨセルなどの再生セルロース繊維も含んでおり、短繊維、長繊維については問わない。また、一部化学変性してカルボキシメチル化したものなども用いることができる。

【0009】布帛が不織布である場合、不織布の種類については、短繊維不織布であっても、長繊維不織布であっても、これらの複合された布帛であってもいっように支障はない。また、紙と不織布の複合したシート状物や不織布に樹脂ラミネートなどを施したものを選ぶこともできる。他方、薄くスライスされたスポンジ状のもの、例えばEVA（ポリ酢酸ビニール）や変性PVAといったものを用いることもできる。

【0010】いずれにしても、シート材料はスキンケア薬剤の保持と、折り畳みとスティック状巻き上げに耐えられる形態安定性のあるシート材料であればよく、概ね10～150g/m²の目付のシート材料が用いられる。材料コストや製造のし易さの点からいえば、ニードルパンチ乾式不織布、部分サーマルボンド不織布、湿式スパンレースやベンリーゼ（旭化成工業社製、キュブラアンモニウムレーヨン不織布）などが適材である。これら材料は、顔の凹凸に沿う柔らかさを有するものであることが望ましい。

【0011】本発明のポイントは、フェイスマスク布帛をスティック状に巻き上げた点にある。さらに、実質上乾燥した状態でシール包装をしてパック化をしたこと、また薬液を添加し、シール包装をしてパック化をしたことにもある。フェイスマスクをこのようにスティック状に巻き上げ、シール包装を利用してパック化しようという発想はこれまでに全くなく、本発明者らが初めて試みたものである。

【0012】スティック状体とは、細い棒状のものを意味しているが、円筒状や多角柱状という表現のものも含んでいる。約5～15mmの径で約20～120mmの長さのスティック状にしたものが持ち運びと取り扱いに便利なので好適である。しかし、この数値に厳密にとらわれるものではない。シール包装については、プラスチックフィルムシートやアルミラミネートシートなどを用いて、高周波ウエルダーやヒートシーラーで長細い円筒状の包装形態にしたり、ポリスチレン成型シートを用いたラミネート包装やパウチ包装など、シート材料の変質や、スキンケアのために加えた薬剤の変質と減少を防げる機密性のよい包装であることが好ましい。そして、簡単に開封できる工夫がなされていると一層好ましい。医薬品の錠剤やカプセルの包装方法であるブリスター包装なども利用できる。

【0013】

【実施例】以下実施例を示すが、この例にのみ本発明が

限定されるものではない。

〔実施例1〕レーヨン短繊維（単糸デニール2.5d、41mm長）70重量%とポリエステル短繊維（単糸デニール1.7d、38mm）30重量%の混合湿式スパンレース不織布を布帛として用い、図1に示す製造工程によりスティック状体のフェイスマスク・バックを製作した。

【0014】前記の混合湿式スパンレース不織布を幅250mmのスリットロール（1）に加工した。このスリットロール（1）をスティックタイプ・ウェットロール製造設備（進和技研社製）にかけ、図中矢印の方向に向かう一連の加工を経て携帯用フェイスマスク・バックを製作した。すなわち、スリットロール（1）から引き出された不織布スリット（2）は先ず図1で示す工程中、その中心線に沿って2つに折り（3）を形成する工程、ついで、回転する1対のロータリー打ち抜きロールにより、図中点線（4）に沿って2つ折りフェイスマスク（5）の形が打ち抜かれる。このように、半分に折り畳まれた形状で打ち抜きフェイスマスク（5）は、図2で示される展開形状（5'）を有するフェイスマスクである。次に、更に半分に折り畳まれ、細長い状態になった折り畳みフェイスマスクシート（6）を先端から直径約10mm、長さ68mmの略円筒状のスティック状体（7）に巻きあげた。このときスキンケアローションをノズルを用いて添加、飽充することもできる。このようにして得たフェイスマスクのスティック状体をアルミラミネートシートを用いて、シール（9）、（9'）及び（9''）としてパック包装して同様の携帯用フェイスマスク・バック（8）を得た。この実質上乾燥した状態でシール包装されてなるスティック形携帯用フェイスマスク・バック（8）は、ちょうどスティックシュガーのような形状を有し、持ち運びにも邪魔にならず、旅先などで区分包装されたスキンケアローションを含浸させて手軽に使えるスキンケアバックであった。また、適当量のスキンケア薬液を添加、飽充し、シール包装した携帯用フェイスマスク・バック（8）は、シール包装の包装を破りスティック状体になっている布帛を広げ顔に当てただけで、スキンケアができるものであった。

【0015】実質上乾燥した状態でシール包装されてなるスティック形携帯用フェイスマスク・バックを作る際には、円筒状のスティック状体（7）に巻き上げるとき、またはその前後の工程にて少量の香料などをノズルを用いて添加することもできる。その場合は、後から使用者がスキンケアローションなどを浸潤できるように水分量を小さく調節することが肝要である。混合湿式スパンレース不織布を用いて、図3で示すように展開形状のフェイスマスク（5a）を打ち抜き、破線（10）に沿って谷折り（6）して、更に破線の所を山折りしたフェイスマスク（7）としてから、図1で示す工程でスティック状体としてから、バック包装して同様の携帯用フェ

イスマスク・バック(8)を得ることもできる。

〔実施例2〕ベンリーゼTS507(旭化成工業株式会社製キュブラアンモニウムレーヨン不織布)を布帛として用いて、図3で示す工程によりスティック状携帯用フェイスマスク・バックを製作した。ベンリーゼTS507を一辺が300mmの正方形のハンカチ様片を30枚重ねて打ち抜き金型を用いてプレス機で図3で示すフェイスマスク(5a)を打ち抜いた。このフェイスマスク各一枚を図3で示す手順にしたがって、二重折形(6)を経て四重折りフェイスマスク(7)とし、更にスティック状に巻き上げた後、実施例1と同様の方法でシール包装して携帯用フェイスマスク・バックを得た。実施例1で製作した携帯用フェイスマスク・バックと同様に、実質上乾燥した状態でシール包装されてなるスティック状携帯用フェイスマスク・バック(8)は、持ち運びにも邪魔にならず、旅先などでスキンケアローションを含浸させて手軽に使えるスキンケアバックであった。また、適当量のスキンケア薬液を添加、飽充し、シール包装した携帯用フェイスマスク・バック(8)は、シールを簡単に剥ぎ、中身を取り出し、拡げて顔にあててパックをすることが実に手軽にできる携帯用フェイスマスクであった。

【0016】

【発明の効果】本発明の携帯用フェイスマスク・バックは、スティック状体であり、かつ一個一個が独立して包装されているので、嵩張らず、携行に便利であり、旅行等の際には必要な数量を携行することができるとも

に、衛生的であり使用時には簡単に拡げることができる。さらに、実質上乾燥した状態でシール包装されてなるスティック状携帯用フェイスマスク・バックは、包装袋をスキンケア液充填用の容器として使用できるため、スペースもとらずに適当量のスキンケア液を含浸させることができ、また、適当量のスキンケア薬液を添加、飽充し、シール包装した携帯用フェイスマスク・バックは、何処でも簡単に、しかも何の準備も必要とせずにスキンケアができる。本発明の携帯用フェイスマスク・バックは、前記の優れた利便性に加えて、包装材料の節減も可能にするという利点がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の携帯用フェイスマスク・バック及びその製作工程を示す説明図。

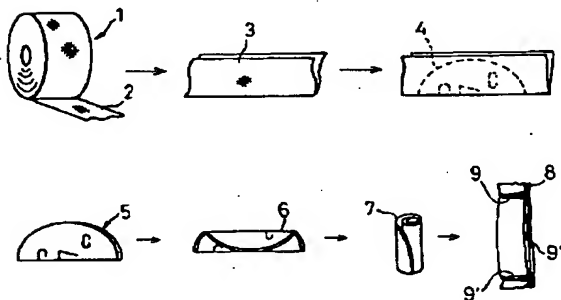
【図2】図1の製作工程における打ち抜きフェイスマスク材の展開形状を示す図。

【図3】本発明の携帯用フェイスマスク・バックの他の製作工程例説明図。

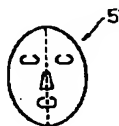
【符号の説明】

- 1…スリットロール
- 2…不織布スリット
- 5…フェイスマスク(2つ折り)
- 5', 5a…フェイスマスク(展開形状)
- 7…スティック状体
- 9, 9', 9"…シール
- 8…携帯用フェイスマスク・バック

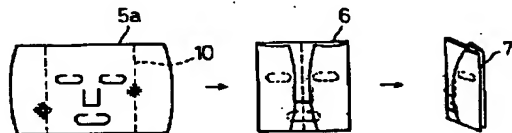
【図1】



【図2】



【図3】



フロントページの続き

(72)発明者 金子 裕一
大阪府大阪市北区堂島浜1丁目2番6号
旭化成工業株式会社内

(72)発明者 市川 温彦
愛媛県川之江市金生町下分928番地 株式
会社本田洋行内

(72)発明者 三宅 正隆
香川県三豊郡豊浜町大字和田甲237-1
昭和紙工株式会社内

Bibliographic Fields

Document Identity

(19) 【発行国】

日本国特許庁 (J P)

(12) 【公報種別】

公開特許公報 (A)

(11) 【公開番号】

特開平 1 0 - 8 1 6 1 2

(43) 【公開日】

平成 1 0 年 (1 9 9 8) 3 月 3 1 日

Public Availability

(43) 【公開日】

平成 1 0 年 (1 9 9 8) 3 月 3 1 日

Technical

(54) 【発明の名称】

携帯用フェイスマスク・バック

(51) 【国際特許分類第 6 版】

A61K 7/00

【FI】

A61K 7/00 U

L

【請求項の数】

3

【出願形態】

O L

【全頁数】

4

Filing

【審査請求】

未請求

(21) 【出願番号】

(19) [Publication Office]

Japan Patent Office (JP)

(12) [Kind of Document]

Unexamined Patent Publication (A)

(11) [Publication Number of Unexamined Application]

Japan Unexamined Patent Publication Hei 10 - 81612

(43) [Publication Date of Unexamined Application]

1998 (1998) March 31 days

(43) [Publication Date of Unexamined Application]

1998 (1998) March 31 days

(54) [Title of Invention]

PORTABLE FACE MASK * PACK

(51) [International Patent Classification, 6th Edition]

A61K 7/00

[FI]

A61K 7/00 U

L

[Number of Claims]

3

[Form of Application]

OL

[Number of Pages in Document]

4

[Request for Examination]

Unrequested

(21) [Application Number]

特願平 9 - 1 1 2 8 3 9

(22) 【出願日】

平成 9 年 (1 9 9 7) 4 月 3 0 日

Foreign Priority

(31) 【優先権主張番号】

特願平 8 - 1 9 0 7 4 6

(32) 【優先日】

平 8 (1 9 9 6) 7 月 1 9 日

(33) 【優先権主張国】

日本 (J P)

Parties

Applicants

(71) 【出願人】

【識別番号】

0 0 0 0 0 0 3 3

【氏名又は名称】

旭化成工業株式会社

【住所又は居所】

大阪府大阪市北区堂島浜 1 丁目 2 番 6 号

(71) 【出願人】

【識別番号】

5 9 6 1 0 6 2 3 8

【氏名又は名称】

昭和紙工株式会社

【住所又は居所】

香川県三豊郡豊浜町大字和田甲 2 3 7 - 1

(71) 【出願人】

【識別番号】

5 9 6 1 0 6 2 4 9

Japan Patent Application Hei 9 - 112839

(22) [Application Date]

1997 (1997) April 30 days

(31) [Priority Application Number]

Japan Patent Application Hei 8 - 190746

(32) [Priority Date]

1996 (1996) July 19 days

(33) [Priority Country]

Japan (JP)

(71) [Applicant]

[Identification Number]

000000033

[Name]

ASAHI CHEMICAL INDUSTRY CO. LTD. (DB
69-053-5364)

[Address]

Osaka Prefecture Osaka City Kita-ku Dojimahama 1-Chome
2-6

(71) [Applicant]

[Identification Number]

596106238

[Name]

SHOWA PAPER CONSTRUCTION KK

[Address]

Kagawa Prefecture Mitoyo-gun Toyohama-cho Oaza Wada
shell 237 - 1

(71) [Applicant]

[Identification Number]

596106249

JP1998081612A

1998-3-31

【氏名又は名称】

株式会社本田洋行

【住所又は居所】

愛媛県川之江市金生町下分 9 2 8 番地

Inventors

(72) 【発明者】

【氏名】

溝口 隆久

【住所又は居所】

宮崎県延岡市旭町 6 丁目 4 1 0 0 番地 旭化成工業株式会社内

(72) 【発明者】

【氏名】

金子 裕一

【住所又は居所】

大阪府大阪市北区堂島浜 1 丁目 2 番 6 号 旭化成工業株式会社内

(72) 【発明者】

【氏名】

市川 温彦

【住所又は居所】

愛媛県川之江市金生町下分 9 2 8 番地 株式会社本田洋行内

(72) 【発明者】

【氏名】

三宅 正隆

【住所又は居所】

香川県三豊郡豊浜町大字和田甲 2 3 7 - 1 昭和紙工株式会社内

Agents

(74) 【代理人】

[Name]

KK HONDA GOING ABROAD

[Address]

Ehime Prefecture Kawanoe City Kanao-cho Shimowake 92 8

(72) [Inventor]

[Name]

Mizoguchi Takahisa

[Address]

Inside of Miyazaki Prefecture Nobeoka City Asahi-cho
6-Chome 4 100 Asahi Chemical Industry Co. Ltd. (DB
69-053-5364)

(72) [Inventor]

[Name]

KANEKO Yuichi

[Address]

Inside of Osaka Prefecture Osaka City Kita-ku Dojimahama
1-Chome 2-6 Asahi Chemical Industry Co. Ltd. (DB
69-053-5364)

(72) [Inventor]

[Name]

Ichikawa Haruhiko

[Address]

Inside of Ehime Prefecture Kawanoe City Kanao-cho
Shimowake 92 8 KK Honda going abroad

(72) [Inventor]

[Name]

Miyake Masataka

[Address]

Inside of Kagawa Prefecture Mitoyo-gun Toyohama-cho
Oaza Wada shell 237 - 1 Showa paper construction KK

(74) [Attorney(s) Representing All Applicants]

【弁理士】

[Patent Attorney]

【氏名又は名称】

[Name]

石田 敬（外3名）

Ishida Takashi (3 others)

Abstract

(57) 【要約】

(57) [Abstract]

【課題】

[Problems to be Solved by the Invention]

手軽に携行でき何時でも、何処でも手軽にスキンケアができる携帯用フェイスマスク・パックの提供。

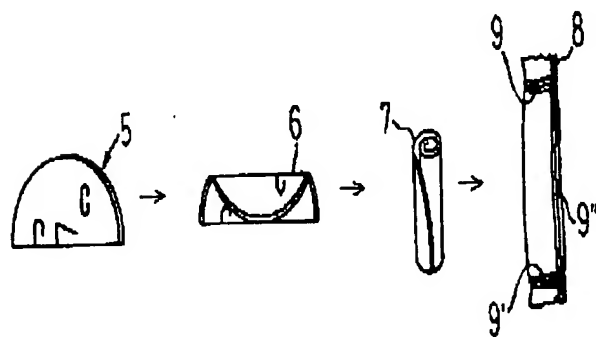
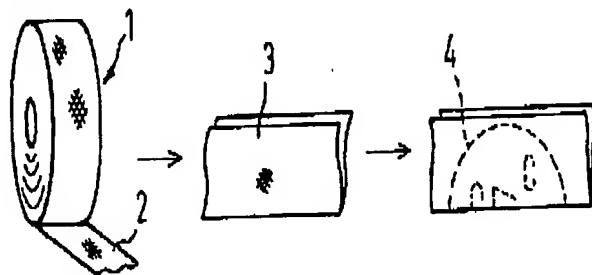
Offer of portable face mask * pack which it can carry along easily and when and where can do skin care easily.

【解決手段】

[Means to Solve the Problems]

展開すると人の顔面に適合する形に切られた液体保持性を有するシートのフェイスマスクであって、該フェイスマスクの展開形状片もしくは折り畳み片がスティック状状体に巻き上げられたものと、適当量のスキンケア液体がシール包装されたものを区分けして一体包装されてなるスティック形携帯用フェイスマスク・パック。

When it develops, with face mask of sheet which possesses the liquid retention which is cut in shape which conforms to facial surface of the person, skin care liquid of thing and suitable amount where it could hoist to stick condition body development configuration piece or folding piece of said face mask seal separation doing those which are packed, being packed just, stick shape portable face mask * pack. which becomes

**Claims**

【特許請求の範囲】

[Claim(s)]

【請求項 1】

展開すると人の顔面に適合する形に切られた液体保持性を有するシートのフェイスマスクであって、該フェイスマスクの展開形状片もしくは折り畳み片がスティック状体に巻き上げられたものと、適量のスキンケア液体がシール包装されたものを区分けして一体包装されてなるスティック形携帯用フェイスマスク・バック。

【請求項 2】

フェイスマスクが乾燥状態でスティック状に巻き上げられている請求項 1 記載のスティック形携帯用フェイスマスク・バック。

【請求項 3】

フェイスマスクにスキンケア液体が含浸されスティック状に巻き上げられている請求項 1 記載のスティック形携帯用フェイスマスク・バック。

Specification

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、誰でもが手軽に使い、持ち運びに邪魔にならずコンパクトで、且つ、いつでも、何処でもスキンケアが可能となる携帯用のフェイスマスク・バックに関する。

【0002】

【従来の技術】

従来、フェイスマスクは、顔面に適合する形に打ち抜かれた布帛状物が 10 枚ほど重ねられ、乾燥状態で包装された物が供給されてきた。

これらは旅行などの際には必要な数量を分けて別な包装をして持ち運ぶ必要があった。

また、使用するときには化粧水やスキンケア薬剤を適量含浸させ、顔に張り付けるという方法を利用者に求めてきたため、含浸させるための容器や適切な量を測る容器なども必要であった。

最近では、携帯用と称して、フェイスマスク布帛を固くプレスし、小さくして持ち運びに便利にしたものも知られているが、しかしこれも薬液を別に小分けして持ち運び、使用する

[Claim 1]

When it develops, with face mask of sheet which possesses the liquid retention which is cut in shape which conforms to facial surface of the person, skin care liquid of thing and suitable amount where it could hoist to stick body development configuration piece or folding piece of the said face mask seal separation doing those which are packed, being packed just, stick shape portable face mask * pack. which becomes

[Claim 2]

face mask being dry state, stick shape portable face mask * pack. which is stated in Claim 1 which is hoisted to stick

[Claim 3]

stick shape portable face mask * pack. which is stated in Claim 1 where skin care liquid is impregnated in face mask and is hoisted to stick

[Description of the Invention]

[0001]

[Technological Field of Invention]

As for this invention, who and easily use, in conveyance not to become the disturbance with compact, at same time, anytime and it regards face mask * pack of portable where skin care becomes possible anywhere.

[0002]

[Prior Art]

Until recently, as for face mask, about 10 -layer you could repeat the clothing which is driven out in shape which conforms to facial surface, those which are packed with dry state were supplied.

As for these traveling or other case dividing required number quantity, packing separately, it was necessary to carry.

In addition, when using, suitable amount impregnating lotion and the skin care drug, because it seeks method that from user, it attaches to face, also canister in order to impregnate and canister etc which measures appropriate quantity were necessary.

Recently, naming portable, to be hard press it does face mask cloth, makes small and also those which are made convenient to conveyance are known, but when but this subdividing reagent solution separately, it carries, using, product which has

るときには含浸容器や計量具などを用意する必要がある製品でしかなく、結果として利便性に欠けるものであった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

本発明は、以下の課題が克服され手軽に携行出来、何時でも、何処でも手軽にスキンケアが出来るフェイスマスク・パックの提供を課題とするものである。

(1)できるだけコンパクトで、嵩張らない形態にすること

(2)使うときには広げやすく、扱いやすいこと

(3)薬液を添加する手間を無くすこと、あるいは適量の化粧水やスキンケア薬剤を容易に含浸させられることという課題を克服したフェイスマスク・パックを提供することを目的とする。

【0004】

【課題を解決するための手段】

本発明者らは、上記目的を達成するために鋭意検討を重ね、液体保持性を有するシートから打ち抜かれるか、もしくは切り抜かれたフェイスマスクのシートそのままか、もしくは適当な幅になるように数回折り畳み、その長手方向に向かって巻き上げてスティック体としたものと、適当量のスキンケア薬液をシール包装したものを一体包装した携帯用フェイスマスク・パックを得ること、またはそのスティック体に適当量のスキンケア薬液を添加、飽充し、シール包装した携帯用フェイスマスク・パックを得ることにより前記課題を解決することを可能にするものである。

【0005】

すなわち本発明の課題は、展開すると人の顔面に適合する形に切られた液体保持性を有するシート of フェイスマスクであって、該フェイスマスクの展開形状片もしくは折り畳み片がスティック状体に巻き上げられたものと、適当量のスキンケア液体がシール包装されたものを区分けして一体包装されてなるスティック形携帯用フェイスマスク・パック、または該スティック状体がスキンケア液体で飽充され、シール包装されてなるスティック形携帯用フェイスマスク・パックによって達成することができる。

necessity to prepare impregnation vessel and weighing tool etc only being, those which are lacking in convenience without, as result.

【0003】

[Problems to be Solved by the Invention]

As for this invention, problem below can be overcome and been able to carry along easily, when and where it is something which designates offer of face mask * pack which can do skin care easily as problem.

(1) just it makes form which with compact, bulk is not stretched thing

When (2) using, it is easy to expand, to handle is easy thing

labor which adds (3) reagent solution is lost, or face mask * pack which overcomes problem, lotion of suitable amount and thing which impregnates skin care drug easily is offered makes objective.

【0004】

[Means to Solve the Problems]

In order to become sheet of face mask where these inventors repeats the diligent investigation in order to achieve above-mentioned objective, is driven out from sheet which possesses liquid retention, or cut and was pulled out that way, or suitable width, those which are made stick body facing toward longitudinal direction of several times folding, hoisting and, portable face mask * pack which packs those which skin care reagent solution of suitable amount seal are packed just is obtained, or it adds skin care reagent solution of suitable amount to that stick body, 飽 fills up, aforementioned problem is solved is something which is made possible seal by obtaining the portable face mask * pack which is packed.

【0005】

Namely as for problem of this invention, when it develops, with face mask of sheet which possesses liquid retention which is cut in shape which conforms to facial surface of person, those where it could hoist to the stick body development configuration piece or folding piece of said face mask and, skin care liquid of suitable amount seal separation doing those which are packed, just being packed stick shape portable face mask * pack, or said stick body which becomes being skin care liquid, 飽 it is filled up, seal can be packed and it can achieve with stick shape portable face mask * pack which becomes.

【0006】

本発明のシートは実質上乾燥した状態で用いられることが大切であるが、水分や液体状物質を全く含有しないことが必要なわけではなく、シート重量の約 80 重量%~150 重量%の液を保持できる性質を有していればよい。

製造工程で自然に吸湿された水分や添加物等が含まれていても支障はない。

例えばセルロース繊維からなる布帛では通常 5 重量%から 15 重量%程度の水分を含んでいる。

【0007】

本発明の携帯用フェイスマスク・パックは、スティック状に巻いてあるため、嵩張らず、小さなバッグやコスメティックファンデーションケースに必要な数だけを入れて持ち歩くことができる。

また、実質上乾燥した状態でシール包装されてなるスティック形携帯用フェイスマスク・パックは、包装袋を液充填用の容器として使用できるため好きな化粧水を好きな量だけ含浸させることができる。

また、適当量のスキンケア薬液を添加、飽充し、シール包装した携帯用フェイスマスク・パックは、スキンケアに必要な材料が 1 パックになっており、シール包装の包装を破りスティック状態になっている布帛を広げて顔に当てるだけで、スキンケアができる優れたものである。

【0008】

フェイスマスク用のシート材料としては、紙、不織布などが適当であるが、薄くスライスされたスポンジシートや膨潤性のあるフィルムであることもできる。

シート材料は、人の顔に沿う柔らかさとスキンケアのための液体を保持する性質を備えた布帛もしくはシート材料であればよく、シート重量の約 80%~150%の液をまんべんなく保持できる性質があればよい。

一般的には、保液性の面からいうと、これらの布帛状物にはセルロース繊維が含まれていることが望ましい。

これは、スキンケア薬剤がローションや乳液であり、保液のため及びフェイスマスクの柔

【0006】

sheet of this invention is used with state which with respect to substance is dried, it is important, but if property which does not contain water and liquid substance completely a necessary reason not to be, can keep liquid of approximately 80 weight%~150 weight% of sheet weight it had been supposed to have possessed.

water and additive etc which absorbed moisture are done being included by natural with production step, there is not a hindrance.

With cloth which consists of for example cellulose fiber water of 15 weight% extent is included from usually 5 weight%.

【0007】

portable face mask * pack of this invention has and walks, because it is wound in the stick, inserting just required number in bulk tension, small bag and コスメ T. っく foundation case, it is possible.

In addition, seal being packed with state which with respect to substance is dried, stick shape portable face mask * pack which becomes because the packaging you can use as canister for liquid fullness, just favorite the quantity can impregnate favorite lotion.

In addition, it adds skin care reagent solution of suitable amount, 飽 fills up, seal as for portable face mask * pack which is packed, material which is necessary for the skin care has become 1 pack, it is something where it tears packing seal packing and expanding cloth which becomes stick body, it just applies to face, skin care it is possible and is superior.

【0008】

As sheet material for face mask, paper, non-woven fabrics etc is suitable, but it is possible also to be a film which has sponge sheet and swellable which slice are done thin.

If sheet material should have been cloth or sheet material which have the property which keeps liquid for flexibility and skin care which parallel to face of person, there should have been a property which can keep approximately 80% - 150% liquid of sheet weight evenly.

Generally, when you say from aspect of liquid retaining property, cellulose fiber is included in these clothing, it is desirable.

Because this, skin care drug with lotion and emulsion, because of the liquid retention and because of softening of

軟性のためセルロース繊維の存在が好ましい結果を与えるからである。

ここでいうセルロース繊維とは、いわゆる広義のセルロースを意味し、パルプ、綿花等の天然セルロース繊維はもちろん、レーヨン、キュブラ、アセテート、リヨセルなどの再生セルロース繊維も含んでおり、短繊維、長繊維については問わない。

また、一部化学変性してカルボキシメチル化したものなども用いることができる。

【0009】

布帛が不織布である場合、不織布の種類については、短繊維不織布であっても、長繊維不織布であっても、これらの複合された布帛であってもいっこうに支障はない。

また、紙と不織布の複合したシート状物や不織布に樹脂ラミネートなどを施したものを選ぶこともできる。

他方、薄くスライスされたスポンジ状のもの、例えば EVA(ポリ酢酸ビニール)や変性 PVA といったものを用いることもできる。

【0010】

いずれにしろ、シート材料はスキンケア薬剤の保持と、折り畳みとスティック状巻き上げに耐えられる形態安定性のあるシート材料であればよく、概ね $10\sim 150\text{g/m}^2$ の目付のシート材料が用いられる。

材料コストや製造のし易さの点からいえば、ニードルパンチ乾式不織布、部分サーマルボンド不織布、湿式スパンレースやベンリーゼ(旭化成工業社製、キュブラアンモニウムレーヨン不織布)などが適材である。

これら材料は、顔の凹凸に沿う柔らかさを有するものであることが望ましい。

【0011】

本発明のポイントは、フェイスマスク布帛をスティック状に巻き上げた点にある。

さらに、実質上乾燥した状態でシール包装をしてバック化をしたこと、また薬液を添加し、シール包装をしてバック化をしたことにもある。

フェイスマスクをこのようにスティック状に巻き上げ、シール包装を利用してバック化し

face mask gives result whose existence of cellulose fiber is desirable.

cellulose fiber referred to here, cellulose of so-called broad definition is meant, pulp, cotton flower or other natural cellulose fiber includes, does not question of course rayon, cuprammonium rayon, acetate, Lyocell or other regenerated cellulose fiber concerning short fiber, filament.

In addition, part chemical modification doing, you can use also those etc which carboxymethylation it does.

【0009】

When cloth is non-woven fabrics, with short fiber non-woven fabrics or with filament non-woven fabrics or absolutely there is not a hindrance with cloth where these are compounded concerning kind of non-woven fabrics.

In addition, it is possible also to choose those which administer the sheet shaped item and resin laminating etc which paper and non-woven fabrics compound to non-woven fabrics.

other, to be thin those of sponge which slice is done. for example EVA (poly vinyl acetate) and it is possible also to use those such as modified PVA.

【0010】

If margin and sheet material should have been sheet material which has form stability which withstands retention and folding and stick hoist of skin care drug in which, in general sheet material of weight of $10 - 150\text{g/m}^2$ can use.

If you say from point of ease of material cost and production, needle punch dry type nonwoven, portion thermal bond non-woven fabrics, wet type spun lace and ベンリーゼ (Asahi Chemical Industry Co. Ltd. (DB 69-053-5364) supplied, cuprammonium rayon ammonium rayon non-woven fabrics) etc are right talent.

These material are something which possesses flexibility which parallels to unevenness of face, it is desirable.

【0011】

As for point of this invention, there is a point which hoisted the face mask cloth to stick.

Furthermore, packing seal with state which with respect to substance is dried, it converted pack, in addition reagent solution is added, there is also a thing which packs seal and converts pack.

There is not a conception that so far completely, this way it will hoist face mask to stick, to pack it will convert making

ようという発想はこれまでに全くなく、本発明者らが初めて試みたものである。

【0012】

スティック状体とは、細い棒状のものを意味しているが、円筒状や多角柱状という表現のものも含んでいる。

約 5~15mm の径で約 20~120mm の長さのスティック状にしたものが持ち運びと取り扱いに便利なので好適である。

しかし、この数値に厳密にとられるものではない。

シール包装については、プラスチックフィルムシートやアルミラミネートシートなどを用いて、高周波ウエルダーやヒートシーラーで長細い円筒状の包装形態にしたり、ポリスチレン成型シートを用いたラミネート包装やパウチ包装など、シート材料の変質や、スキнкаアのために加えた薬剤の変質と減少を防げる機密性のよい包装であることが好ましい。

そして、簡単に開封できる工夫がなされていると一層好ましい。

医薬品の錠剤やカプセルの包装方法であるブリストア包装なども利用できる。

【0013】

【実施例】

以下実施例を示すが、この例にのみ本発明が限定されるものではない。

(実施例 1)

レーヨン短繊維(単糸デニール 2.5d、41mm 長)70 重量%とポリエステル短繊維(単糸デニール 1.7d、38mm)30 重量%の混合湿式スパンレース不織布を布帛として用い、図 1 に示す製造工程によりスティック状体のフェイスマスク・バックを製作した。

【0014】

前記の混合湿式スパンレース不織布を幅 250mm のスリットロール(1)に加工した。

このスリットロール(1)をスティックタイプ・ウェットロール製造設備(進和技研社製)にかけ、図中矢印の方向に向かう一連の加工を経て携帯用フェイスマスク・バックを製作した。

use of seal packing it is something which these inventors tried for first time.

[0012]

stick body, those of thin rod are meant, but also those of expression, cylinder and polygonal prism include.

Approximately 5 - Because those which with diameter of 15 mm are made stick of length of approximately 20 - 120 mm conveyance and handling convenient it is ideal.

But, it is not something which is caught to this numerical value strictly.

Concerning seal packing, can prevent, degradation of sheet material and the degradation of drug which is added because of skin care and decreases such as laminating packing and pouch packing which with high frequency welder and heat sealer it makes packaging form of length thin cylinder making use of plastic film seat and aluminum laminated sheet etc, use polystyrene molded sheet it is packing where confidentiality which are good, it is desirable.

And, simply when device which unsealing it is possible has done it is more desirable.

It can utilize also tablets of medical drug and blister packing etc which is a packaging method of capsule.

[0013]

[Working Example(s)]

Below Working Example is shown, but it is not something where this invention is limited as only this example.

{Working Example 1 }

rayon short fiber (single filament denier 2.5d, 41 mm long) 70 weight% and polyester short fiber (single filament denier 1.7d, 38 mm) it used mixed wet type spunlaced fabric of 30 weight% as cloth, it produced face mask * pack of stick body with the production step which is shown in Figure 1.

[0014]

Aforementioned mixed wet type spunlaced fabric was processed in slit roll (1) of the width 250 mm.

You applied this slit roll (1) on stick type * wet roll production facility (Shin harmony engineering and research supplied), passing by consecutive processing which faces to direction of in the diagram arrow, you produced portable face mask * pack.

すなわち、スリットロール(1)から引き出された不織布スリット(2)は先ず図 1 で示す工程中、その中心線に沿って 2 つに折り(3)を形成する工程、ついで、回転する 1 対のロータリー打ち抜きロールにより、図中点線(4)に沿って 2 つ折りフェイスマスク(5)の形が打ち抜かれる。

このように、半分に折り畳まれた形状で打ち抜きフェイスマスク(5)は、図 2 で示される展開形状(5')を有するフェイスマスクである。

次に、更に半分に折り畳まれ、細長い状態になった折り畳みフェイスマスクシート(6)を先端から直径約 10mm、長さ 68mm の略円筒状のスティック状体(7)に巻きあげた。

このときスキンケアローションをノズルを用いて添加、飽充することもある。

このようにして得たフェイスマスクのスティック状体をアルミラミネートシートを用いて、シール(9)、(9')及び(9'')してパック包装して同様の携帯用フェイスマスク・パック(8)を得た。

この実質上乾燥した状態でシール包装されてなるスティック形携帯用フェイスマスク・パック(8)は、ちょうどスティックシュガーのような形状を有し、持ち運びにも邪魔にならず、旅先などで区分包装されたスキンケアローションを含浸させて手軽に使えるスキンケアパックであった。

また、適当量のスキンケア薬液を添加、飽充し、シール包装した携帯用フェイスマスク・パック(8)は、シール包装の包装を破りスティック状体になっている布帛を広げ顔に当てるだけで、スキンケアができるものであった。

【0015】

実質上乾燥した状態でシール包装されてなるスティック形携帯用フェイスマスク・パックを作る際には、円筒状のスティック状体(7)に巻き上げるとき、またはその前後の工程にて少量の香料などをノズルを用いて添加することもできる。

その場合は、後から使用者がスキンケアローションなどを浸潤できるように水分量を小さく調節することが肝要である。

混合湿式スパンレース不織布を用いて、図 3 で示すように展開形状のフェイスマスク(5a)を打ち抜き、破線(10)に沿って谷折り(6)して、更に破線の所を山折りしたフェイスマスク(7)としてから、図 1 で示す工程でスティック

You snap non-woven fabrics slit (2) which was pulled out from namely, slit roll (1) to the two in step which is shown first with Figure 1, alongside the center line shape of two snapping face mask (5) is driven out step. which forms (3) with rotary notch roll of one pair which next, turns, alongside in the diagram dotted line (4).

This way, notch face mask (5) is face mask which possesses development configuration (5') which is shown with Figure 2 with configuration which was folded in half.

From tip to wind folding face mask sheet (6) which had become state which next, furthermore is folded in half, is long and narrow in the stick body (7) of abbreviation cylinder of diameter approximately 10 mm, length 68 mm.

This time it adds skin care lotion making use of nozzle, 飽 fills up 飽 it can do also thing.

seal (9), (9') and doing making use of aluminum laminated sheet, (9' and 9'') pack packing stick body of face mask which it acquires in this way it acquires similar portable face mask * pack (8).

seal being packed with state which with respect to this substance is dried, can use easily it was a skin care pack where stick shape portable face mask * pack (8) which becomes exactly has even in conveyance impregnates not to become disturbance configuration like stick sugar, fraction is packed skin care lotion which such as ahead travelling.

In addition, it adds skin care reagent solution of suitable amount, 飽 fills up, those where seal portable face mask * pack (8) which is packed tears packing seal packing and expands cloth which becomes stick body and just applies to the face, can do skin care.

[0015]

seal being packed with state which with respect to substance is dried, case where it makes stick shape portable face mask * pack which becomes, when hoisting to stick body (7) of cylinder, or, it is possible also to add fragrance etc of trace with step of front and back making use of nozzle.

In that case, from after user invasion in order for it to be possible skin care lotion etc, water content is adjusted is necessary small.

Making use of mixed wet type spunlaced fabric, as shown with Figure 3, valley fold doing alongside notch, dashed line (10), (6), furthermore face mask which the ridge fold it does place of dashed line (7) as after after, with step which it shows with Figure 1 as stick body, pack packing the face

状態としてから、バック包装して同様の携帯用フェイスマスク・バック(8)を得ることもできる。

〔実施例 2〕

ベンリーゼ TS507(旭化成工業株式会社製キユプラアンモニウムレーヨン不織布)を布帛として用いて、図 3 で示す工程によりスティック状携帯用フェイスマスク。

バックを製作した。

ベンリーゼ TS507 を一辺が 300mm の正方形のハンカチ様片を 30 枚重ねて打ち抜き金型を用いてプレス機で図 3 で示すフェイスマスク(5a)を打ち抜いた。

このフェイスマスク各一枚を図 3 で示す手順にしたがって、二重折形(6)を経て四重折りフェイスマスク(7)とし、更にスティック状に巻き上げた後、実施例 1 と同様の方法でシール包装して携帯用フェイスマスク・バックを得た。

実施例 1 で製作した携帯用フェイスマスク・バックと同様に、実質上乾燥した状態でシール包装されてなるスティック形携帯用フェイスマスク・バック(8)は、持ち運びにも邪魔にならず、旅先などでスキンケアローションを含浸させて手軽に使えるスキンケアバックであった。

また、適当量のスキンケア薬液を添加、飽充し、シール包装した携帯用フェイスマスク・バック(8)は、シールを簡単に剥ぎ、中身を取り出し、拡げて顔にあててバックをすることが実に手軽にできる携帯用フェイスマスクであった。

【0016】

【発明の効果】

本発明の携帯用フェイスマスク・バックは、スティック状であり、かつ一個一個が独立して包装されているので、嵩張らず、携行に便利であり、旅行等の際には必要な数量を携行することができるとともに、衛生的であり使用時には簡単に拡げることができる。

さらに、実質上乾燥した状態でシール包装されてなるスティック形携帯用フェイスマスク・バックは、包装袋をスキンケア液充填用の容器として使用できるため、スペースもとらずに適当量のスキンケア液を含浸させることができ、また、適当量のスキンケア薬液

mask (5 a) of development configuration, it can also obtain similar portable face mask * pack (8).

{Working Example 2 }

べ As cloth using ン Lee ゼ TS507 (Asahi Chemical Industry Co. Ltd. (DB 69-053-5364) make cuprammonium rayon ammonium rayon non-woven fabrics), with step which is shown with Figure 3 stick portable face mask.

pack was produced.

べ It drove out face mask (5 a) which one edge handkerchief like square of 300 mm piling up 30 pieces, with press shows ン Lee ゼ TS507 with Figure 3 making use of notch mold.

Following to protocol which shows this face mask each one layer with the Figure 3, passing by double time shape (6), quadruplex snapping face mask (7) with it did, furthermore after hoisting to stick, the seal it packed with method which is similar to execution Isao 1 and acquired portable face mask * pack.

In same way as portable face mask * pack which is produced with Working Example 1, the seal being packed with state which with respect to substance is dried, as for stick shape portable face mask * pack (8) which becomes, even inconveyance impregnating not to become disturbance skin care lotion such as ahead travelling, it was a skin care pack which you can use easily.

In addition, adding skin care reagent solution of suitable amount, 飽 filling up, seal portable face mask * pack (8) which is packed, tearing off seal simply, removing contents, expanding and applying to face it was a portable face mask which does pack and can make truly easy.

[0016]

[Effects of the Invention]

Because portable face mask * pack of this invention is packed, with stick body, at the same time one one becoming independent, being convenient to bulk tension and carrying along, traveling or other case as it can carry along required number quantity, with hygienic it expands simply when using, it is possible.

Furthermore, seal being packed with state which with respect to substance is dried, because packaging you can use, as canister for skin care liquid fullness without taking either space, impregnates skin care liquid of suitable quantity be able to do stick shape portable face mask * pack which becomes, in addition, as for portable face mask * pack where

を添加、飽充し、シール包装した携帯用フェイスマスク・パックは、何処でも簡単に、しかも何の準備も必要とせずにスキンケアができる。

本発明の携帯用フェイスマスク・パックは、前記の優れた利便性に加えて、包装材料の節減も可能にするという利点がある。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の携帯用フェイスマスク・パック及びその製作工程を示す説明図。

【図 2】

図 1 の製作工程における打ち抜きフェイスマスク材の展開形状を示す図。

【図 3】

本発明の携帯用フェイスマスク・パックの他の製作工程例説明図。

【符号の説明】

- 1
スリットロール
- 2
不織布スリット
- 5
フェイスマスク(2 つ折り)
- 5a
フェイスマスク(展開形状)
- 5'
フェイスマスク(展開形状)
- 7
スティック状体
- 8
携帯用フェイスマスク・パック
- 9
シール

it adds skin care reagent solution of suitable amount, 飽 fills up, seal it packs, where simply, Furthermore many preparations do necessity, skin care is possible.

portable face mask * pack of this invention is a benefit that makes also conservation of the packaging material possible, in addition to convenience where description above is superior.

[Brief Explanation of the Drawing(s)]

[Figure 1]

portable face mask * pack of this invention and explanatory diagram. which shows its preparation step

[Figure 2]

Figure which shows development configuration of notch face mask in preparation step of Figure 1.

[Figure 3]

Other preparation step example explanatory diagram. of portable face mask * pack of this invention

[Explanation of Symbols in Drawings]

- 1
slit roll
- 2
non-woven fabrics slit
- 5
face mask (two snapping)
- 5 a
face mask (Development configuration)
- 5 & apos;
face mask (Development configuration)
- 7
stick body
- 8
portable face mask * pack
- 9
seal

9'

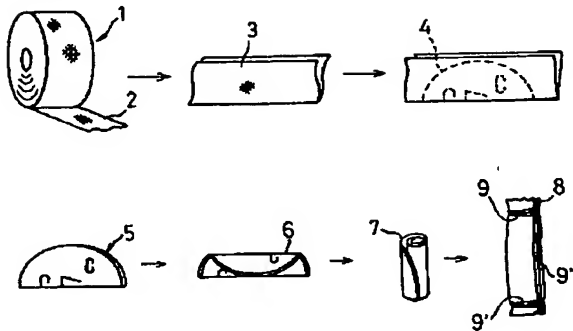
シール

9"

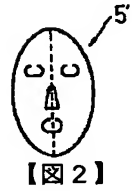
シール

Drawings

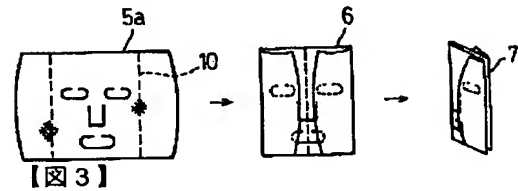
【図 1】



[Figure 1]



[Figure 2]



[Figure 3]